

将来像（都市像）について

1 将来像（都市像）

将来像（都市像）は、自治体の地域づくりの基本目標に当たり、地域全般に及ぶ将来ビジョンを描くものである。基本構想に盛り込まれる人口等の指標、土地利用構想、施策の大綱はもとより、戦略プロジェクトや分野別基本計画等のよりどころとなるものであり、いわば総合計画の頂点（中枢）をなすものである。

2 将来像（都市像）検討の視点

- （1）地域内外への両面性を配慮した将来像（都市像）を！
- （2）地域づくりの可能性と夢を育む将来像（都市像）を！
- （3）分かりやすさとインパクトのある将来像（都市像）を！
- （4）地域性、独自性豊かな将来像（都市像）を！

（1）地域内外への両面性を配慮した将来像（都市像）

将来像（都市像）は、今後の自治体の地域づくりの方向性と目標年次における地域の姿を示すもので、「地域づくりの意志」を最も明確に表現すべき部分である。そして、この「地域づくりの意志」は、自治体の行政内部や地域の住民団体等とはもとより、国・県などの関係機関、近隣自治体、その他関係者、関係自治体等地域外部に対しても効果的に伝えていくべきもので、言葉の選択、表現方法など、地域内外への両面性を配慮して描くことが必要である。

（2）地域づくりの可能性と夢を育む将来像（都市像）

地域を取り巻く社会情勢、自治体の財政状況など、地域づくりには様々な困難さや厳しさが山積みしているが、それらは、多かれ少なかれすべての自治体に共通している。このような時代であるからこそ、地域の問題点や遅れている点などの改善、穴埋めばかりに目を向けることなく、たとえ今は小さな可能性であってもそれを大切に育み、住民が共鳴し、希望を持って暮らし、共に歩んでいけるような共通目標となる将来像（都市像）を描くことが望まれる。

（3）分かりやすさとインパクトのある将来像（都市像）

地域内外を問わず、総合計画を通じて「地域づくりの意志」を効果的に伝え、賛同と参画、支援を得ていくためには、「意志」の中枢を成す将来像（都市像）が共通の理解が得られ、心に訴えていけるものでなければならない。

このことから、将来像（都市像）は総合計画の中で最も分かりやすく、インパクトを持つ工夫が必要であり、文章量は少なくとも言葉を選び、集約し、端的かつ明瞭に表現することが望まれる。

(4) 地域性、独自性豊かな将来像(都市像)

地域性やこれに裏うちされた独自性は、分かりやすさとインパクト、そして何よりも内容の説得性を高め、「意志」を効果的に伝えるとともに、地域住民に対しては親しみと誇りをもたらすものとなる。

そのため、将来像(都市像)検討に当たっては、有形無形の地域の特性や資源、財政を再認識し、これを土台に、将来への夢と地域の個性化、独自化に結びつく、他の地域の模倣ではない言葉(キーワード)を選び、将来像(都市像)を描いていくことが必要である。また、「地域の言葉」の使用に心がけることも重要である。

3 第三次長野市総合計画の将来像(都市像)について

五輪の感動を未来へ

夢きらめく交流とやすらぎのまちながの

現在の総合計画の将来像(都市像)の、「五輪の感動を未来へ」については、大成功に終わったオリンピック・パラリンピックの開催都市として、栄誉を後世に伝え、また、オリンピック・パラリンピックの有形無形の資産を生かしたまちづくりを市政の基本としたいと考え表現したものである。

また、「夢きらめく」については、オリンピック・パラリンピックという大きな夢を実現した今日、次の新たな夢を求めて動き出す活気あふれる状況を表現したもので、市民一人ひとりが持っている夢や希望が生き生きと表現でき、また実現することができるような活気に満ちたまちを実現したいとの願いを表現したものである。

次に、「交流」については、オリンピック・パラリンピックが、世界が集い交流することの象徴であり、大会終了後においても、オリンピック・パラリンピック開催都市として国際的知名度と関連施設を生かした国際観光・コンベンション都市づくりを目指して、人・物・情報の交流や心のふれあいを基調とする市政を進めたいとの決意を表現したものである。

次に、「やすらぎ」については、心の潤いややすらぎのないところには、幸せは生まれないと考え、常に人間を原点においた市政運営に努め、環境施策や福祉施策を積極的に推進するとともに、長野市を訪れる人々にとっても「やすらぎ」が感じられるやさしいまちでありたいとの願いを表現したものである。

以上が、第三次長野市総合計画の将来像である「将来の姿」の基本的な考え方である。